

系列組織の技術学習能力とイノベーション

ー日本自動車産業における計量分析ー

神戸大学大学院 経済学研究科 博士後期課程 宋 政炫¹ (ソン ジョンヒョン)

神戸大学大学院 経済学研究科 准教授 中村健太

要旨

日本自動車産業の世界的な成功の背景・要因として、日本特殊の系列構造が取り上げられてきた。その系列構造の特殊な効率性に対する研究は様々な角度から行われており、組織内部での相互学習効果、技術交流効果もその1つの要因として指摘されている。

しかし、相互学習効果、技術交流効果に関する議論は、理論的なモデルやインタビュー調査での結果によって示した先行研究が多く、定量的な手法としてグループ内部のスピールオーバー効果を分析した研究はいまだにない。また、産業内部からのスピールオーバー効果を考察するときに、系列構造を想定した上で系列内部からの効果と系列外部からの効果を区分した先行研究も数少ない。

本研究では当該企業の資本支配関係・取引関係から、同盟関係として考えられる系列構造を特定することによって、グループ内部からのスピールオーバー効果とグループ外からのスピールオーバー効果との相違点を解明する。その結果、系列グループ内部からのスピールオーバー効果は自社の技術能力に正の影響を与える反面、系列グループ外からのスピールオーバー効果は負の影響を与えていることを明らかにした。また、技術スピールオーバー効果を企業の特許データ・財務データを用いて定量分析することを通じて、企業の技術能力の要因は自社の既存能力だけではなく、系列グループメンバーからのスピールオーバー効果が要因であることが明らかにし、系列組織内部の技術学習効果に対する肯定的で実証的な結果を示している。

Key Word: Organizational Learning, Keiretsu, Appropriability, R&D, Innovation

JEL Classification: L22, L24, L62

¹ arkenciel@gmail.com